

建築史・意匠・計画からみた近現代の仙台と東北

—建築雑誌 2025 年 12 月号特集「Regionalism in 仙台」をもとに—

日 時：2026 年 2 月 28 日（土）13 時 00 分～16 時 00 分

場 所：東北工業大学テクロビ（東北工業大学 地域連携センター）+ Zoom オンライン

（〒980-0021 仙台市青葉区中央 4 丁目 4-19 アーバンネット仙台中央ビル 5F 022 266 5222）

参加費：無料（定員 50 名・予約制先着順・会員外のどなたでも参加できます）

次 第

序：REgionalism in 仙台 大沼正寛（東北工業大学／会誌編集委員／東北支部建築史・意匠部会幹事）

【話題提供】

① 遺跡のデザインは誰がするの？地底の森ミュージアムの体験から 近江 隆（東北大学名誉教授）

② 仙台の景観変容と横丁の可能性 横山英子（横山芳夫建築設計監理事務所）

③ 史論—工業都市「大仙台」の建設と都市計画 齋藤駿介（東急株式会社）

【コメント／討論】

崎山俊雄（東北学院大学）、長田城治（郡山女子大学）、鈴木真歩（岩手県立大学）ほか

建築史・意匠部会委員 および 上記登壇者

【まとめ】

黒坂貴裕（八戸工業大学／東北支部建築史・意匠部会長）

お問合せ

日本建築学会
東北支部事務局
TEL 022-265-3404
FAX 022-265-3405
E-MAIL：
aij-tohoku
●mth.biglobe.ne.jp
（●を@に変える）

お申し込み

希望される方は参加
方法（対面／Zoom
の別）などについて、
以下のフォームから
お申し込みください
（2/20 金までにお願
いします）



日本建築学会誌「建築雑誌」の 2024-25 年編集委員会では、多彩な毎号のなかで「REgionalism」なる連続特集が組まれた。

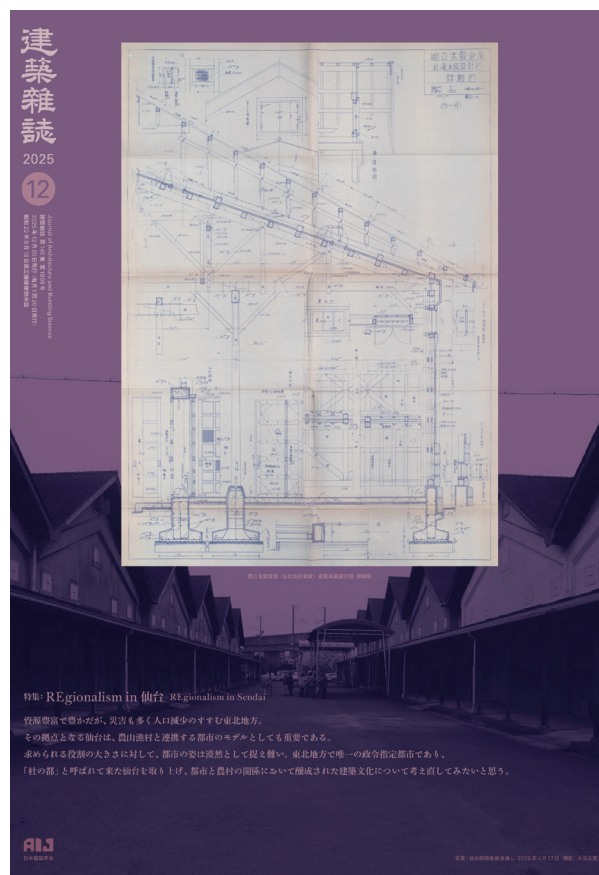
CIAM* によるモダニズム都市のディシプリン（働く・住む・憩う・移動する）に「歴史的資源」を加えた 5 つの視点を掲げつつ、福岡・名古屋・仙台の 3 都市を事例に、巨大都市とその圏域の小都市のこれまで・これからを描き、論じるものである。

その最終号にあたる 2025 年 12 月号では、特集記事

「Regionalism in 仙台」が編まれ、仙台および仙台都市圏の様相が一定程度、浮かび上がったといえる。

そこで、本誌をテキストとしながら、建築史・建築意匠・建築計画を横断し、拠点都市仙台の近現代を考えるとともに、いま・これからを含め、東北各地の近代都市史・建築史・建築論にも考察を寄せることとしたい。

*CIAM・・・ル・コルビュジエほか建築家たちが集まり、都市・建築の近代化・将来像について討論を重ねた「近代建築国際会議」（1928-1959）。



2025 年 12 月号 表紙：仙台政府倉庫（現存せず）